



【平成31年2月号】

清水小学校

校長 高井正樹

学びのサポート

冬休みが始まったばかりの12月27日（木）・28日（金）の2日間、学校図書館で「ふれあい 子ども学びのサポート教室」を開催しました。これまでは3年生以上が対象でしたが、今回から、1年生から参加できるように枠を広げて実施しました。御影地区在住の納賢三さんと平山正男さん、そして清水高校の生徒さん5名がボランティアとして子どもたちの学習をサポートしてくださいました。サポート教室には、延べ27名の子どもたちが集まり、ボランティアの皆さんに教えていただきながら、冬休みの課題などに熱心に取り組んでいました。



スケートのサポート



今年度はグラウンドにスケートリンクを造成できなかったため、新得町の教育委員会さんをお願いして、新得の町営リンクを使用させていただいています。授業回数は少なくなるものの、子どもたちがスケートに親しむ場を設けることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。また、保護者の皆さんには靴ひもしばり等で新得のリンクまで来ていただき、サポートしていただいています。子どもたちには、皆さんのお陰でスケートの授業ができることに感謝しながら、氷の感触を楽しみ、一生懸命滑って、少しでも上手になってほしいと思います。

給食のサポート

11月に、6年生が家庭科の学習の一環として考えたメニューが、24日（木）の給食に登場しました。「大豆」を使ったメニューがテーマで、「大豆入りトマトカレー」（千葉さん、對馬さんが提案）と「豆ポテトサラダ」（砂田さん、玉澤さん、中野さん、長谷川さんが提案）の2品をいただきました。どちらも大豆の粒がまるごと入っていて存在感たっぷり。食べてみると、とても柔らかくておいしくいただくことができました。6年生の皆さん、おいしいメニューをありがとう！



冬休み作品のサポート

子どもたちが冬休みに取り組んだ作品を一堂に展示した「冬休み作品展」が行われました。保護者の皆さんには、子どもたちが作品を作るに当たり、様々なサポートをいただいたことと思います。おかげさまで、子どもらしいアイデアが溢れる作品、時間をかけてじっくりと取り組んだ作品、心を込めて丁寧に作り上げた作品など、見応えのある作品がたくさん並び、素敵な作品展になりました。作品展は終了しましたが、子どもたちの力作の一部を、図工室(2階)の展示スペースに、2月末まで展示しています。学校にお越しの際に、ぜひ足を運んでご覧になってください。



御影小学校

校長 真下 正 則

「〜?〜? ていねいに!」

25日間の冬休みも終わり、いよいよ1年のまとめとなる3学期がスタートしました。21日(金)の始業式には、子どもたちの元気な顔がそろい、久しぶりに学校も活気を取り戻すことができました。それぞれの学級では、冬休み中に取り組んだ自由研究の紹介をしたり、楽しかった思い出などを発表し合ったりしました。

この3学期は、43日間と一番短い学期となります。どの子も自信を持って進学・進級できるように、子どもたちに確かな力を身に付けさせたいと考えております。

今学期も教職員一丸となって頑張ってお参ります。どうか、保護者・地域の皆様の本校の教育活動に対するご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



【5年と保育所年長さんとの交流】

佐藤 道教育長さんの訪問!

3学期3日目の23日(水)に、北海道教育長佐藤嘉大氏(本校第54回卒)、大橋十勝教育局長、三澤清水町教育長、他関係者7名が、本校の教育活動視察のために来校されました。全学級の授業を参観し、その後3・6年の教室に分かれ、給食も児童と一緒に試食していただきました。児童の皆さんにとっても、大変貴重な機会となりました。



【佐藤 道教育長さんと給食(6年)】

今年の冬は、例年になく雪が少なく、スケートリンクの造成が思うように進めることができませんでした。冬休み終了間際に、リンク造成会役員並びに関係者で話し合いをもち、今シーズンのリンク造成を見送ることとなりました。完成には至りませんでしたが、これまで造成に向けた計画・準備を進めていただきました造成会や保護者の皆さんに心から感謝申し上げます。

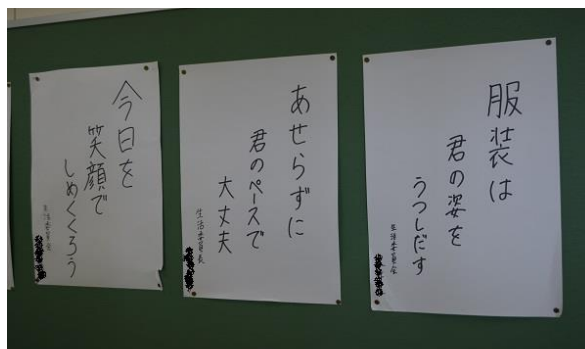
尚、3学期のスケートの授業については、関係の皆さんのご協力をいただき、御影のアイスアリーナを利用して行うこととなりました。子どもたち並びに保護者の皆様にはご不便をおかけしますが、ご理解の程よろしくお願いたします。

清水中学校

日常生活の心構えとして～各委員会からのメッセージ

本校の生徒会には、書記局以外に生活・学芸・図書・保健美化・体育・放送・歌声・選挙管理委員会といった専門委員会があります。その委員たちは、学期に数回ある委員会活動日やその他の時間を使って、全校生徒のために力を発揮してくれます。その中で各委員会からの標語ポスターが廊下に貼ってあります。歩いているとふと目に飛び込んできて、各委員会からのメッセージがドーンと心に響き、自分を振り返る瞬間となります。

「服装は君の姿をうつしだす」とか、「今日を笑顔でしめくくろう」とか、ちょっとホッとするものもあります。各委員会からの明るく楽しく学校生活を送るための方法として、全校生徒がしっかりとその思いを受け止めてほしいですね。



頑張れ！3年生応援プロジェクト！

後期生徒会メンバーは受験を控えた3年生を応援しようと「3年生応援プロジェクト」を企画しました。その一つが千羽鶴の取組。1・2年生は3年生全員の合格を願って一つ一つ丁寧に作り上げた折り鶴を内緒で集めて千羽鶴を送りました。先輩たちの進路実現を心から願っています！



カギが・・・ない! ?

先日、久しぶりの雪が降った次の日の朝、ゼーゼーと息を切らした生徒が困った顔をして職員室にやってきました。「先生、カギを落としてしまいました。おそらく・・・」と、2カ所ばかり心当たりのある場所を話してくれました。無くしたのは家のカギ。この雪が舞



う風の中、見つからないかも・・・と思っていたところ、直ぐさま本校K先生とSさんが話を聞いて、その心当たりの場所に向かってくれました。心配して帰りを待っていると、「あった、ありました」と。2名の職員の大活躍でした。その生徒の不安な表情がパッと明るくなりました。元気を取り戻し、お礼を言って授業へ向かっていきました。

(教頭 須藤 正博)

御影中学校

生まれてきてくれてありがとう!

12月から3回にわたって助産師の前川さんと三浦さんを講師にお招きし、3年生が「性の学習」を行いました。御影中学校では、3年間計画的に「性の学習」を行っていますが、その総まとめとしてお二人には素晴らしい授業を提供していただきました。

1月23日(水)の最終の授業では、一人一人が奇跡的に生まれてきた貴重な存在であることを知らされました。そして「生まれてきてくれてありがとう!」と Saying it, a little shy 3rd grade students' expressions were the same.



そして、サプライズは授業終盤にありました。なんと生後6ヶ月前後の赤ちゃんを連れて3人のお母さんの登場です。驚いて声も出ない3年生。恐る恐る赤ちゃんに近づき、お母さんから赤ちゃんを育てる喜びや苦勞を聴きながら全員が「抱っこ」の体験をさせていただきました。「どうすればいいの?」「どこをもてばいいのかな?」と戸惑いながらもみんな上手



に抱っこして、自然に笑みがこぼれます。受験生として正念場を迎えている3年生は、普段の中学校生活では見せない天使の笑顔になっていました。短い時間の触れ合いでしたが、赤ちゃんのぬくもりを直に感じ、指を握られた感触は彼らの中に貴重な体験として残るはずです。これから先の彼らの人生が素晴らしいものになることを願わずにはいられない、感謝感激の授業となりました。

(教頭 宗形 真恵)

卒業間近の3年次生特集！

総合学科である本校では、体験的な学習を多く取り入れ、いきる学力を身に付けることを目指し日々取り組んでいます。卒業をいよいよ間近に控えた3年次生は、そうしたこれまでの学習の成果を、発表や交流、出店など様々な形で総括しました。

「基礎中国語」の授業では、プリマハム清水工場で研修している中国人実習生の方々と交流しました。会話では発音やアクセントの聞き取りに四苦八苦しながらも、筆談や英語も交えながらこやかに談笑する姿が印象的でした。最後は、孟浩然の漢詩「春暁」を一緒に朗読し終了しました。



「応用英語」の授業では、国際理解を深め、英語での表現力を高めることなどを目的に、各自が自由に設定したテーマについて、英語によるスピーチを行いました。海外の税金や、世界の国々のワークスタイルなど、一人10分ほどの発表時間をフルに使ってプレゼンした後、教員からの質問に英語で回答するなど、まさにこれまで培った英語での応用力が発揮されました。



【写真:吉澤茉来さん(芽室出身)の発表】

また、芸術科では、普段は別々に学習している「音楽Ⅲ」「書道Ⅲ」「美術Ⅲ」の科目の選択者が一堂に会し、各科目で制作した作品などを披露し合い、交流しました。表現方法の違いとともに、表現の多様性を学び、芸術の奥深さや幅広さなどを感じ取りました。



【写真:宝崎貴雅さん(新得出身)の発表】

人間生活系列では、高齢者の施設である「清水町デイサービスセンター」や「うらら」を訪問し、レクレーションの実習を行いました。お年寄りが楽しめるように工夫して準備したビンゴゲームや玉入れを、和やかな雰囲気の中で交流しました。



生産技術系列の食品分野では、ふれあい食堂様の協力を得て、町民の皆さん向けの清高ショップ「ウンベル モメント（至福のひととき）」をハーモニーホールで、オープンしました。これまでのコンテストで入賞した「新芽バインミー」や「そば茶ムース」など6種類を個数限定ではありますが、多くのお客様に味わっていただきました。



これらの選択授業のほかにも、全員が履修する「総合的な学習の時間」では、課題研究発表会を行いました。課題研究では、それぞれの興味・関心や進路に関するテーマを自ら設定し、調べたことをまとめてプレゼンします。選ばれた8つの組の3年次生は、プレゼンテーションソフトを使用し、デモンストレーションを取り入れるなどの工夫を凝らして、来年学習する2年次生の前で発表していました。その中で、本校を代表して3年C組の後藤優輝さん(帯広出身)が、「究極の社会保障～ベーシックインカムについて～」と題して、全道の総合学研究発表大会で発表してきました。

清水幼稚園

園長 福原幸江

アイスアリーナで氷上遊び

今年は、隣接の小学校リンク造成も断念するほどの小雪で、外遊びも思うようにできず、子どもたちも残念がっています。そんな中、1月24日(木)に、年中・年長さんでアイスアリーナに行ってきました。

ばら組は昨年の経験を生かし、準備も早くできましたが、さくら組は苦戦。何とかヘルメットを装着し氷上に向かいました。はじめは、足慣らしとして2チームの対抗で「そり」を使ったゲームを行いました。



ばら組はすいすい上手に氷を歩いていましたが、さくら組さんは慎重に臨んでいました。

その後は、各クラスに分かれ、長靴ホッケーと「そり」を使って楽しみ、最後に宝探しゲームで大賑わいの中終了しました。子どもたちは、グラウンドで思い切り遊べる雪を心待ちにしているようです。



木のおもちゃをありがとう



1月25日（金）清水高等学校生産技術系列の3年生14名（男子）と先生が来園され、たくさんの木のおもちゃを持参してくれました。生徒さんから使い方や、おもちゃで遊ぶ注意点などの説明を受け、順番にお兄さんたちに遊び方を教えてもらいながら、いろいろなおもちゃやゲームに挑戦しました。



その後、2チームに分かれサイコロゲームやオセロ、ころがしドッジボールで一緒に楽しみました。最後に、一年間お世話になった高校生と先生に、全員でお礼を言いました。お兄さんたちは、春からは、いろいろな道の一年生。園児は小学一年生です。お互いに頑張ってくださいとエールを送り、15年目の交流を締めくくりました。

28日（月）には、年長さんが、年中さん、年少さんに、高校生から頂いたおもちゃの使い方や注意点を説明しました。ちょっぴり緊張した様子でしたが、その後、各クラスで実際に遊ぶことができました。丈夫な木のおもちゃは子どもたちに大人気です。



教育委員会

コミュニティ・スクール導入に向けて

来年度からのコミュニティ・スクール導入に向け、2月19日（火）に最後の準備委員会を開催する予定です。そこで学校運営協議会規則や組織、体制が確定します。

コミュニティ・スクールとは、地域の声を学校運営に生かしながら、幅広い地域住民の参画を得て、学校と地域が一体となって特色ある学校づくりを進めていくことで、子どもたちの学びや体験の充実を図るものです。

清水町では12年前から、地域一丸となった“しみず「教育の四季」”を実践してきました。各学校には様々な学習ボランティアが子どもたちの支援に入っています。「挨拶・返事・後片付け」「早寝・早起き・朝ご飯」等、基本的習慣の定着や規範意識を高める等、町民が一丸となって取組を進めてきました。

コミュニティ・スクールに変わっても“しみず「教育の四季」”が目指す「感性あふれ表情豊かな子」を育てることには、今後も一貫して変わることはありません。

子どもたちの成長に、より多くの地域住民や保護者に積極的に関わっていただき、今進めている活動をみんなが思いを共有する中で更に発展させていくことが重要になってきます。

「いい学校」は「いい地域」によってつくられます。「いい学校」をつくろうと、学校・家庭・地域が協働することで「いい地域」も生まれます。コミュニティ・スクールは地域活性化の役割も担っているのです。

(教育指導幹 清水彦一)



しみず教育の四季

家庭・学校・地域が連携して町民総ぐるみで「12の窓」から
感性あふれ、表情豊かな子を育てる

冬～厳しさに生きる人の中で きたえ磨く

家庭・学校・地域

今月の取組

家庭は、行ってらっしゃい

笑顔で声掛け

地域は、子どもの安全

見守ろう